

Special Needs Education Research Center

SNERC通信

(第45号—2017年5月)

国立大学法人 筑波大学
特別支援教育研究センター
センター長：岡 典子

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

TEL&FAX：03-3942-6923

HP：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

■巻頭言 「未来からのまなざし」

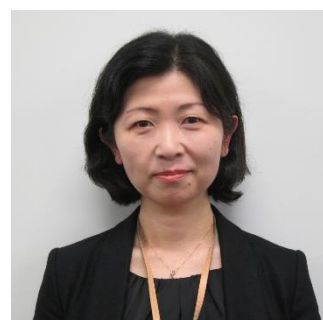
筑波大学特別支援教育研究センター長 岡 典子

去る3月27日に開催した本センター主催セミナーでは、かつて本学附属特別支援学校で教鞭をとってこられたおふたりの先輩をお招きし、教員時代や現在のお仕事について貴重なお話を伺いました。当日は、各附属特別支援学校をはじめ、学外からも大勢の先生方においでいただき、盛況のうちにセミナーを終えることができました。講演をご快諾くださったおふたりの先生方、年度末の忙しい時期にもかかわらず、会場にお運びくださった参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。

当日の会場で私は、「特別支援教育の歴史をたどってみると、歴史上、優れた成果を残してきた学校や学級には、時代や国、障害種の違いを超えて、必ずひとつの共通点があります。それは、そこには必ず優れた実践者が存在したこと、そしてその実績を継承したすぐれた後継者がいたということです」と申し上げました。かつてのフランスでアヴェロンの野生児を指導したイタールの実践をセガンが引き継ぎ、現代にまでつらなる知的障害教育の礎となったように、あるいはまた、創設期のろう学校や盲学校が多数の優れた卒業生たちを通して各地に聴覚障害・視覚障害教育を伝播させていったように、洋の東西を問わず、特別支援教育は高い志とそれを実現する方法論をもつ優れた実践者たちの手によって、バトンのように引き継がれてきたのです。

教育に関わる問題には、時代によって変化を求められる「流行」と、いつの時代にも変わらずに存在し続ける「不易」があります。江戸時代の俳人松雄芭蕉は、不変の真理を知らなければ基礎を確立することはできず、変化を知らなければ新たな進展はないとしたうえで、両者の根本はひとつであるという言葉を残しています。セミナー当日の会場には、さまざまな世代の先生方がお見えになっていましたが、先輩からのエールに熱心に耳を傾け、世代を超えて共感する様子を拝見して、特殊教育から特別支援教育へと時代は変わっても、また携わる子どもたちの障害種や状態像は違っても、そこには共通する願いがあり、喜びがあり、迷いがあるのだということ、「かつての優れた実践」は、参加された先生方おひとりおひとりの手で、現代の学校教育のなかにかたちを変えて生きていくのだということを確認しました。不易と流行の根本はひとつであるという芭蕉の言葉を改めて感じた瞬間でした。

見えないバトンを継いでいくということ。それは、私たちもまた、いずれは次世代へと私たちの実践を伝えていかなければならないことを意味しています。一方で、世代間の継承とは、我々世代の実践や選択が真に良いものであったのか否かを、未来から問われる行為でもあります。障害のある子どもの教育に携わるといふこと。それは、今日の前にいる子どもたちだけでなく、未来を生きる子どもたちの、そして彼らを育む未来の教師たちのまなざしの前に立ち続ける行為でもあるのだ。おふたりの先輩の後姿から、そんなことを教えられたセミナーでもありました。



■センタースタッフ紹介

センター長をはじめ以下のスタッフで運営していきます。よろしくお願いいたします。



柘植 雅義 (障害科学域)

センター勤務、4年目となりました。障害科学域の知的・発達・行動障害学分野に所属しています。今年度も、東京キャンパス、筑波キャンパス、そして、附属大塚特別支援学校の3つの業務を楽しんでいきます。



左藤 敦子 (障害科学域)

センター勤務も長くなりました。初心を思い出しつつ、センターとして新たに挑戦できることはなにかを考えて、この一年を過ごしていきたいと思っています。今年度もよろしくお願いいたします。



粟仙有実子 (附属視覚)

センター勤務2年目となります。教材・指導法データベース学習会などを通して、視覚障害の視点から、見やすさへの配慮や視覚に頼らない方法などを5附属で共有できる機会をつくっていききたいと思っています。



深江 健司 (附属聴覚)

2年目になりますが、新年度を迎え、いろいろな意味でドキドキしています。体調に気を付けて、この1年しっかりがんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



本間 貴子 (附属大塚)

附属大塚特別支援学校から派遣され今年度よりセンターで勤務することになりました。研修生の先生方が充実した1年を過ごせるようにサポートさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



田丸 秋穂 (附属桐が丘)

データベース学習会では、各附属の先生方にたくさんご参加いただきありがとうございました。各附属の教材や指導法が、附属間だけでなく、国内外の先生方に活用いただけるようにしたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。



小曾根和子 (附属久里浜)

現職教員研修と5附属連絡会議を担当します。どちらも、附属の先生方のご協力に支えられている事業ですので、先生方のお役に立つ成果が示せるよう、努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



■センター年間予定

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 6月 8日(木) | 5 附属連絡会議 (附属視覚特別支援学校を会場に開催) |
| 7月 24日(月) ~ 8月 4日(金) | 平成29年度免許法認定公開講座 |
| 9月 14日(木) | 現職教員研修生中間報告会 |
| 11月下旬 ~ 12月上旬 | JICA研修生 附属学校訪問 |
| 1月 11日(木) | 5 附属連絡会議 (附属久里浜特別支援学校を会場に開催) |
| 3月 8日(木) | 現職教員研修生最終報告会・修了式 |
| 3月 26日(月) | センターセミナー |

■ 3月セミナー報告

「シリーズ特別支援教育の伸展（7）-指導法の豊かさを願って：先輩からのエール-」

3月27日（月）にセンター主催セミナーが筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催されました。「シリーズ特別支援教育の伸展」というテーマでの開催が7回目となる今回のセミナーには全国から100名の先生方がお集まりくださいました。

第一部では、センターから、一般公開された教材・指導法データベースに関する今年度の取り組みを報告しました。



第二部では、長年筑波大学附属特別支援学校の教育実践に携わってこられたお二人の先生を講師としてお招きし、ご講演いただきました。「指導法の豊かさを願って：先輩からのエール」というサブテーマにもあるように、これまでの指導実践を通じて大切にしたいと考えていることなどを特別支援教育に携わる私たちへのメッセージとしてお話しく下さいました。小林美千代先生は、附属大塚特別支援学校での実践と就労継続支援B型事業所「工房わかぎり」での取り組みを基に、子供が自立し社会参加する上での大切なことを具体的にお話しく下さいました。馬場顕先生は、附属豊学校小学部での実践を中心に、子供が言葉を身に着け、確かな学習ができるために必要なことなどを、具体例を交えながらお話しく下さいました。

参加いただいた先生からは、「お二人の先生の教育観、指導観は現在にも通じ、共感できるものである」、「障害の領域を超えた（共通した）教師の心構えが学べた」といった感想を多くいただき、「先輩に学ぶことの大切さ」を実感できた有意義なセミナーとなりました。

■ 平成29年度現職教員研修開講式

平成29年度現職教員研修開講式が4月4日に行われました。宮本信也教育長と松本末男次長にお祝いと激励の言葉を頂戴し、研修がスタートしました。研修が始まって1ヶ月が経ち、附属特別支援学校やセンターでの演習・講義が始まりました。今年度の研修生は、附属特別支援学校へ定期的に伺って研修を積んだり、筑波地区でのゼミへ参加したりと、とてもアクティブです。一年間、沢山の先生方にお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



研修生氏名	所属校	指導教員
吉田 史人	北海道星置養護学校 ほしみ高等学園	柘植 雅義
桑田 園子	静岡県立静岡視覚特別支援学校	佐島 毅

■附属ニュース（附属聴覚特別支援学校）

2016 年度日露青年交流事業—ニジニ・ノヴゴロド聴覚特別支援学校訪問—

2016 年度日露青年交流事業として、3 月 26 日から 4 月 1 日まで、筑波大学附属聴覚特別支援学校、東京都立大塚ろう学校、中央ろう学校の先生方の計 13 名で、ロシアのニジニ・ノヴゴロドにある寄宿ろう学校・ピアノ劇場や国立言語大学などを訪問させていただきました。

あらゆるところに生徒の想像力や表現力などを育む工夫がなされたピアノ劇場では、生徒によるパフォーマンスや文化祭での作品を拝見し、その芸術性の高さや完成度に大変驚かされました。徹底した聴覚口話法による指導が行われ、学力向上にも力を入れたカリキュラム構成になっていることは大変興味深いところでした。また、国立言語大学では、日本語の授業を担当している先生方や日本語を学んでいる学生と日露双方の理解を深めることができました。

今回の交流を通して、ロシアの聾学校や聴覚障害教育について学び、またロシアの歴史や文化などについても理解を深めることができ、大変貴重な経験をさせていただくことができました。

（附属聴覚：雁丸新一）



寄宿ろう学校・ピアノ劇場



ニジニ・ノヴゴロド国立言語大学

「連携研究」を募集します。

附属学校間での特別支援教育に関わる連携研究を募集します。筑波大学附属特別支援学校の教員であれば応募することができます。詳細はセンターまでお問い合わせください。

1. 研究助成期間：平成 29 年度内（平成 30 年 3 月まで）の 1 年間
（今年度新規採択については 20 万円を上限とする研究費を助成します。）
2. 申し込み締切り：平成 29 年 5 月 19 日（金）
3. 問い合わせ先：特別支援教育研究センター
TEL：03-3942-6923, E-mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

「筑波大学特別支援教育研究」第 12 巻への投稿論文を募集しています。

平成 30 年 3 月に発行予定の「筑波大学特別支援教育研究 第 12 巻」への投稿を希望される方は、センター担当者までお問い合わせください。投稿規定は、センターホームページからダウンロードできます（例年より締切りが早くなっていますのでご注意ください）。

1. 申し込み締切り：平成 29 年 6 月 16 日（金）
2. 原稿提出締切り：平成 29 年 11 月 27 日（月）
3. 問い合わせ先：特別支援教育研究センター 本間 貴子
TEL：03-3942-6937, E-mail：hommatakako@otsuka-s.tsukuba.ac.jp
4. センター H. P.：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

